



日本大学歯学部第4学年<令和2年秋>

クラス担任通信

主任 今井健一（教授；細菌学講座）

担任 山崎洋介（准教授；解剖学第II講座）

担任 伊藤智加（専任講師；歯科補綴学第I講座）

担任 篠塚啓二（助教；口腔外科学第I講座）

時間割について

後期からは待望の対面実習を始めることができました。密を回避した学修形態とするため、各学年ごとに登校曜日と遠隔授業曜日にはっきり区分した時間割に再編されています。

4年生は、火・木曜日が登校日として、大学において実習に取り組みます。また、月・水・金曜日は自宅で遠隔授業を受講します。対面実習と遠隔授業の組合せは、単なる密回避だけではない、メリットもあろうかと思えます。録画された講義は何度も見返し、納得いくまで自分のペースで視聴できます。実習のために登校することは、遠隔授業だけでは難しい講義担当者への直接の質問の機会や図書館の利用などもできます。現状の仕組みの利点を最大限生かして効果を上げるよう、意欲的に取り組んでほしいと思います。一方で、自宅での遠隔授業は、生活のリズムを作れないと言った声も聞こえます。遠隔授業であれ、対面授業であれ、自分を律して規則正しく生活せねばならぬことに変わりが無いはず。自覚と行動力を持って事に当たって欲しいと同時に、困ったときは、担任や学生相談室などの相談のチャンネルがあることをご承知おきください。(Y)

クラス委員について

本年度のクラス委員は次の4名にお願いしています。学年皆の一致団結を期待しています。

4008 飯村宗一郎君、4063 高田紋花君、4091 平島嘉哉君、4092 福岡愛君



共用試験のこと

共用試験は、全国の大学で統一された試験であり、医歯系学生が臨床実習に臨むにあたり、主に知識を評価する客観試験 CBT(Computer Based Testing) と、実技を通して主に技能・態度を評価する客観的臨床能力試験 OSCE(Objective Structured Clinical Examination) の2種類の試験より構成されています。現在もなお、新型コロナウイルス感染拡大が懸念される場所ではございますが、厳密な感染防御をしながら、下記の通り、予定通りの日程にて執り行う予定です。

- 2021年1月24日:CBT
- 2021年2月13日:OSCE

今後の感染拡大の状況により変更の可能性はありますが、パンデミック下であっても、国家試験や歯科医師免許取得後のことを考慮すると、可能な範囲で実施することが求められています。(S)

日々の記録と発熱時の対応

新型コロナウイルス感染拡大防止のため「日本大学健康観察システムへの記録」と「入構時のサーモグラフィによる体温チェック」の双方を入構許可の基準としています。また、双方共に実施していない者は、入構禁止は勿論のこと、入構できないことに伴う対面授業・実習・試験等の欠席については、本人の責に帰すものとして取り扱うこととします、と学生課よりアナウンスされていますので、日々の記録を怠らないよう指導しております。

また、37.5℃以上または平熱より0.5℃以上あった場合の学生課への連絡と同時に、欠席する教科の担当者への連絡を怠らないようにし、快復後は補講等を願い出てください。発熱から8日間または解熱後4日間は自宅待機の対応をお願いしています。(Y)



クラブ活動について

歯科とはとかく個人主義的になりがちです。しかし歯科の診療行為は1つのチーム活動であり、そのチームを牽引するのが歯科医師です。全てに目を配り、的確な指示を行い、さらに自身が診療行為を行わなくてはなりま

せん。そのような時にクラブ活動で得た経験が、自身を助けることになりませす。先輩の姿を見て、後輩の面倒を見てさらに指示を出し、その中心となってクラブをまとめていく。それは日本大学の教育理念にもあるように、「集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。」と言う、リーダーシップと協働力を培うという、まさに日大ならではの教育方針と繋がっているのではないのでしょうか。そのようなことからクラブ活動は学生にとっても大切なことであると思います。

近年は国家試験に向けての準備で、活動が5年生の前期までとなっているクラブが大半を占めており、さらに今年度は、現時点ではクラブ活動が全面自粛となっており、再開の予定は今のところありません。第4学年は名実ともにクラブ活動においては中心となる学年であり、特に当学年のクラブ加入率は体育会・文化会含めて76.7%となっていることから、活動の機会が無くなってしまった現在はとても残念なことです。しかし、クラブ活動は学生の間だけでの活動ではなく、その繋がりは卒業後も続きます。OBとして先輩と後輩そして現役と、違った形での活動協力を行い、生涯関わって行くこととなります。面白いもので、自身がどんなに偉くなくてもOB会での先輩は絶対で、上下関係が希薄な世の中となってきた現在、他人を敬う心を学ぶ上でも大切な活動であると思います。

歯科医師となり、社会の大海原に乗り出た際には、先輩や後輩そして苦澁を共にした同級生が必ず力となってくれます。現役の活動だけでなく、クラブ活動は一生を通しての活動です。私自身の経験からも、クラブ活動を行うことは生涯においてとても大切なことであると信じています。(I)

対面実習の様子



総義歯補綴学実習

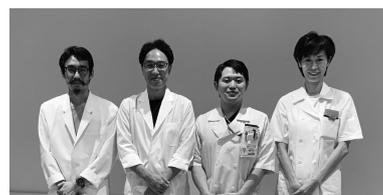


総義歯補綴学実習



口腔外科治療の実際（実習）

担任紹介



右から、伊藤担任、篠塚担任、今井学年主任、山崎担任

担任から学生への



メッセージは桜歯ニュース第206号（左記QRコード）に掲載済みです。年4回発行の同誌にても、その他歯学部部の up-to-date な情報を御覧ください。

学年主任より

～むすびにかえて～

学年主任 今井健一

担任として軽井沢の新入生研修に参加したのが、ついこの間のように思われます。あれから早3年半以上が経過し、年明けにはCBTとOSCEという2つの大きな試験を控えます。この2大試験、院内実習を行うためのスチューデントドクター資格を得るためのものになります。そこで、単にパスするのではなく、余力を持って5年生に進級してほしいと考えます。CBTを例にとりますと、合格点は70点。昨年は134名が受験しましたが、29名が1度でクリアできませんでした。今年度はコロナ禍でweb授業が続き、欠席しがち及び勉強時間が足りない学生もいるようですので、担任が各教科の先生方と協力し引き続きフォローして参ります。

院内実習を目前とし、将来どのような歯科医師になりたいかを、そろそろ真剣に考える時期にも差し掛かりました。残り2年余りとなった貴重な大学生活の時間。一人ひとりが夢を抱き、目標に向かって努力していく姿を楽しみにしています。